

株式会社飯塚製作所

業種	製造業	事業所所在地	山形県酒田市	資本金	10,000千円
				従業員数	31名

	被承継者（左）		
	飯塚 俊悦	67歳	※承継時
	承継者（右）		
	本間 修	56歳	※承継時

事業承継を行った時期		被承継者と承継者の関係	
2018年	3月	従業員（親族外）	
承継前の主たる事業の内容		承継前の主たる事業の課題	
事業内容は、部品製作、組立品、構想実現である。 ①マシンングセンタ、NC旋盤、複合加工機による切削加工を中心に、単純形状から複雑形状の部品を製作。②小型省力化機械の組立製作や治工具を組立製作。③お客様の「こんな部品や「こんな」道具を創ることはできないか？」というニーズにお応えする為に、構想確認から完成品納入する。3つの柱を事業化している。		・新商品・新サービスの開発 事業内容は3つの柱であるが、実際には部品製作、部品加工がほぼ100%である。特に弊社所有資産である、設計技術、生産技術を活かした事業の拡大を図りたい。	

事業承継を実行するまで			
きっかけは？	承継計画の立案	承継までの不安と準備	
承継実行の	半年前	被承継者と承継者で話し合ったこと	被承継者の承継に対する不安
25年以上の付き合いの中で、考え方や聴いたり事情を知る中で、非承継者の体力的な問題もあり、また自分の年齢的なタイミングもあり、意思決定を行った。		会社の現在の状況と経営課題について話し合いを行った。今後の話として資金調達が重要なポイントになり、話し合いを重ねて像合わせを行ってきた。	承継に対する不安は一切なかった。
		関係者との調整	承継者の承継に対する不安
		銀行の調整はもちろんですが、現取締役とのコミュニケーションを密に取り、社内体制と統制の観点で体制作りに時間を使った。	承継に対する不安として、景気動向等の将来への不安や退職金を支払いした時の資金繰りに困らないか等不安いっぱい状態でした。

これに一番苦労した！

本来の事業としては、好景気に支えられてよい時期に行くと認識しています。承継を決めた時期から実際までの期間が短かったので、本来であれば2年～3年かけて承継すべきでしたが、会社の状況が良くわかってからにしたいという思いと、社員からは自分自身の人物像をよく理解してもらった後が一番良かったと思うが、入社から承継までの期間が短く、迷いはなく意思決定はできましたが、社内のコミュニケーションに一番苦労しました。今も道半ばと認識しています。

事業承継について相談したこと		
相談機関の業種	承継に関して受けたサポート内容	
金融機関（銀行）	事業承継の仕方にもいくつかのパターンがあり、そのパターンごとに税法も変わってくるので、どのパターンが一番会社にも負担かけずに非承継者にも負担をかけずにできるかを相談した。 ①事業承継パターンの提案 ②税制優遇を考慮した時の提案 ③承継に関する資金調達	
いつから相談？		
承継実行の		半年前
相談のきっかけ		
事業承継のために承継者または被承継者自身がアプローチ		

新たな取組の標題

CCDカメラを用いた微細位置調整デバイスの開発

新たな取組の内容	新商品の開発又は生産
●当社の設計・生産技術を駆使して医療分野への分析器の感度向上を狙った機構開発に取り組んでいる。この技術を使い、医療とは違った分野への水平展開を図り、工業マターでの展開や研究マターでの展開にもってきたい。 ●応用例として、工業界の計測技術分野での光軸調整機能、製造分野におけるロット刻印機構、加飾加工分野におけるレーザーの位置決め機構、印刷業界における多色刷り印刷機の精密位置合わせ機構、その他に工業界のインクジェット機構の位置合わせ機構や大学等の研究機関における分注装置位置決め機構等があり、応用例の広がりには多岐にわたるので、この位置決め機構一つの商品として販売をしていく。 ●実際には、I J機構の位置合わせ機構について大学からの受注を受け、納品実績を上げた。また、位置合わせ精度向上、操作の簡易化を狙った自動制御化の開発に取り組み、試作機を開発した。（CCDカメラ搭載での調整機構までは到達できなかった。）	
  	

地域経済やバリューチェーンへの貢献	補助対象経費の内訳
設立から4 2年間になり、その間地元の雇用確保や酒田市をはじめとする庄内、山形県、東北地方の多くの会社と取引実績があり、その経済貢献は多々なるものとなっている。弊社の金属加工精度確保や外観品質については、地元でもTOPリーダーを果たしており、技能検定の実技試験の実施会場となり人・装置面での協力、色々な研修会等におけるプレゼンター役を担うなど、地域の発展に貢献している。また、知的・精神障害者の自立訓練を目的として雇用を行っている特定非営利活動法人「支援センターなのはな畑」様において、障害者の雇用確保のために当社から梱包材製作の業務委託を行っており地元発展に対して幅広く協力をおこなっている。	経費の主な使い道 人件費 設備費（天板付きワゴン購入費） 原材料費（部品用金属、樹脂購入費） 外注費（部品加工費）
認定経営革新等支援機関から受けたサポート内容	
<input checked="" type="checkbox"/> 制度内容の理解	<input type="checkbox"/> 事業計画の立案
<input checked="" type="checkbox"/> 各種提出書類の作成	<input type="checkbox"/> 補助事業の実施
事業承継補助金の制度内容についてと、補助金申請に関する提出書類の校正についてサポートを受けた。	

今後に向けて～次の目標	
2018年から2021年に向けて	今回の承継事業をトリガーとして、3D位置調整デバイスを開発したが、これに本来であればCCDカメラを搭載させた位置調整デバイスまで開発を進めたかったが、期間が合わず、そこまでは到達できなかった。今後は、設計のフィールド機能を自社内にもち、社内基盤を機能アップさせ、目下今回の事業承継の成果物である3D位置調整デバイスをCCDカメラ付きにして、拡販を狙っていきたい。
売上高	120 %UP

これから事業承継に取り組む事業者の方へ	
被承継者からの一言コメント	承継者からの一言コメント
色々わからない点などありますが、相談機関を決めて詳細な相談を行い、それでも不安はあると思いますが、非承継者が決めることが一番重要です。自身で決めて進む決心をすることが大事です。	意志決定の重要さは変わらず大事だと思いますが、反省点として資金の流れ、社員の人心掌握合めてもう少し時間をかけて進めたほうが、苦労する点が少なかったように感じています。可能であれば、2、3年かけて承継に取り組んだほうがスムーズだと思います。